

令和6年度第2回 高時川濁水問題検討会議の報告事項と出された意見等

日 時:令和7年3月10日(月)14時00分～16時15分

場 所:ながはま文化福祉プラザ 多目的ホール

出席委員:原田委員、大久保委員、吉村委員

宮崎委員、前川委員、片山委員、向田委員、阪田委員、寺田委員

【報告事項】

○森林保全課

- ・1月31日に実施した「高時川濁水問題に関する報告会」の内容報告。

○湖北森林整備事務所

- ・スキー場跡地の是正工事は令和6年11月末で完了。
- ・高時川と合流する大音波谷川において、治山事業を実施すべく林野庁に令和7年度の予算を要望。

○水産課

- ・南浜において、漁協による河床耕うんを8月、11月に実施。
- ・次年度についても状況把握に努め、必要な支援を継続。

○長浜土木事務所木之本支所

- ・県道のブロック積の下が抜けている箇所について、川の水で洗掘されないよう復旧工事を実施。
- ・復旧が必要な箇所33箇所のうち、現在19箇所が完成し、残り14箇所は令和7年度に完成予定。

○琵琶湖河川事務所

- ・針川堰堤の補修工事には左岸側が完了し、右岸側は令和7年の秋から積雪までの間で施工予定。

○岐阜大学

- ・分析の結果、濁水長期化は上流大雨パターンと中小出水パターンの連続的な組み合わせで発生。
- ・流量と濁度の関係性から、2023年度より2024年度の方が濁度の値が小さく、濁水状況が改善。

○大久保委員

- ・懸濁物質の沈降速度分布の調査地点による比較では、細粒土砂の供給源は大音波谷川流域である可能性がある。ただし、1回の調査結果なので追加調査が必要。

○阪田委員

- ・令和4年8月豪雨後濁水が長期化し漁場環境が悪化し令和5年はアユ漁を休業した(高時川漁協)。
- ・濁水発生から2年半がたち濁りも収まってきたが河川環境はまだ良くない。

【意見等】

○委員(地元関係者)

- ・浚渫土砂をふるいにかけ玉石だけをストックし、高時川の濁りが落ち着いたら石を戻してほしい。
- ・是正工事の沈砂池について、強度などを土木の専門家にも確認してほしい。

○委員(学識経験者)

- ・非常に細かい濁りの原因は改善する方向ではあるが、砂とか砂利はまだかなり残っている状況。
- ・沈砂池の件については、土木の専門家として確認させてもらう。

○委員(地元関係者)

- ・スキー場からの土砂流出を止めることや、高時川において浚渫等で濁りの発生源である土砂の堆積を少なくしてアユの棲める川に戻してほしい。

○委員(学識経験者)

- ・細かな堆積物は一雨ごとに川底が動き洗い流されるが、砂利とか砂などの粒径の大きなものは簡単には移動せず、より長く残ってしまう。砂利とか砂に対して出来る範囲で知恵を絞るべき。

○委員(地元関係者)

- ・治水力が弱まっているのか、最近は雪解け後一気に水が増えて一気に減ってしまう状況。昔は少しずつ減っていたので有効に利用していた。

○委員(学識経験者)

- ・長良川でも川の水温が高く、アユの下る時期がこの数十年で1か月半くらい遅くなっている。
- ・水産多面的機能発揮対策事業は補助金だと思うが、どのように申請すれば適用されるのか。

(回答:水産課)

- ・令和7年度予算は全県ですでに計画が固まっており、令和8年度に向けて、どういう形で何をするのかを検討していく。先に組織を作り、そこで何をするのかという流れになる。

○委員(地元関係者)

- ・河床耕うんをやらなければならないところは高時川にもたくさんあるのではないかな。

○委員(学識経験者)

- ・高時川の上流では砂利や砂が河床を覆ってしまっている。

○委員(学識経験者)

- ・洪水が川底に含まれる泥を洗い流すことで濁水はだんだん改善されていくと思う。
- ・より広い方々に関心を持ってもらい、対立ではなく協調しながら高時川を良くしていくべき。

○委員(地元関係者)

- ・全部元通りというのは難しいかもしれないが、ピンポイントで少しずつ魚が棲める場所を復活させていくことで、時間がたてば魚も増えていくのではないかな。

○委員(学識経験者)

- ・河床内に大きな礫も加えることで、河床空間も多様になり、それによって生き物も戻ってくる。

○委員(学識経験者)

- ・なかなか砂利や砂は流れていかないので、具体的にやれることをやってみてはどうか。

○委員(地元関係者)

- ・アユが一番産業として重要であるにもかかわらず、高時川では産卵できる場所がすごく少ない。

○委員(学識経験者)

- ・生息場所としての高時川だけでなく、琵琶湖全体の問題の中で高時川(姉川)は琵琶湖から入ってくるアユの産卵場となっているので、そういう観点も持ちながら県として取り組まれた方が良い。

(回答:水産試験場)

- ・姉川は琵琶湖のアユ資源を支える重要な川であり、例年琵琶湖全体の半分の産卵が行われてきた。
- ・アユは琵琶湖漁業のなかでも一番大切な魚種なので、その資源を維持するため知恵を絞りたい。

○委員(学識経験者)

- ・高時川とか姉川だけの問題ではなく、琵琶湖全体、滋賀県全体の問題なので、そういった観点で取組をしていけるように問題意識を共有する必要があると思う。

○委員(地元関係者)

- ・川をうまく利活用し、訪問客をこの地域に呼び込むことが非常に大事である。

○委員(学識経験者)

- ・今までは濁水問題として災害復旧等に注力していたが、今後は高時川や姉川、琵琶湖全体を良くしていくというような局面に入っている。

○委員(地元関係者)

- ・河川工事の際、完了後に川の土砂を持ち出さないことが原則なので、土砂の均し方を要望したい。

○委員(学識経験者)

- ・長良川の例では、河川工事で使う土砂は全て川の中のものを使用し、他所からの土砂は一切入れないよう漁協が行政に要請し、撤去時には川の石を持ち出さず、小石を適当に散らばせている。

○座長まとめ

- ・災害復旧や事業者の是正工事などですでに県のたくさんの部署が関わっているが、役割が変わる時期にきている。
- ・いろんな課題について、継続的に進めることも含めて今後の取組体制を県で議論いただきたい。